



鶴岡市・にかほ市・由利本荘市 3市連携交流企画 第1弾

由利本荘 にかほ 鶴岡



認定自治体数

49

2023年2月11日(土)～4月9日(日)

● 日本遺産 ●

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

—北前船寄港地・船主集落—

江戸時代中期から明治30年代にかけて、日本海まわりで商品を売り買いしながら大阪と北海道を結んでいた商船の総称を「北前船」といいます。日本海や瀬戸内海沿岸に点在する港は、北前船の寄港地・船主集落として繁栄しました。本展は近隣自治体が連携し、日本遺産に認定された地域の北前船ストーリーを紹介する企画展です。寄港地という共通した背景を持つ地域に、北前船がそれぞれどのような発展をもたらしたか、各地域の特色を考える契機といたします。



3市連携ギャラリートーク

日時: 令和5年2月11日(土) 午後2時～3時30分

会場: 致道博物館 旧鶴岡警察署庁舎ホール

内容: 対話形式での展示品や構成文化財の解説など

講師: 升川繁敏氏(鶴岡市史編さん委員)

齋藤一樹氏(にかほ市教育委員会文化財保護課専門員)

三原裕姫子氏(由利本荘市教育委員会生涯学習課 課長補佐)

※参加無料(別途入館料が必要)
※申込不要



致道博物館 CHIDO MUSEUM

山形県鶴岡市家中新町10-18 ☎0235-22-1199

入館料 一般800円/高大生400円/小中生300円

※企画展・常設展料金を含む。団体料金等有り

休館日 2月15日(水)、22日(水)

時間 9時～17時(2月末まで16時30分閉館)

※入館受付は、閉館の30分前まで

主催: 公益財団法人致道博物館

共催: 鶴岡市北前船日本遺産推進協議会

協力: 秋田県にかほ市教育委員会

秋田県由利本荘市教育委員会

北前船

2023年
2月11日(土)～4月9日(日)

鶴岡市・にかほ市・由利本荘市
3市連携交流企画 第1弾

日本遺産 北前船



鶴



岡



【鶴岡市の北前船の歴史】
庄内藩最大の湊は酒田ですが、城下町・鶴岡にも寄港地が点在します。加茂湊は、荒い波風を避け城下の生活物資を陸揚げする重要港で、30軒以上の廻船問屋が並んでいました。主に米や酒などを積み込み、塩・砂糖・古着・紙などを買い付けました。荷は加茂坂峠新道を通って城下や周辺地域はもちろん、最上川を溯って内陸へも運ばれました。また、大蔵村の永松鉱山産出銅も加茂を経由し、大阪へ送られました。龍神を祀る古刹・善寶寺には船頭らも参拝に訪れ、航海の安全を祈願しました。



に



か



ほ



【にかほ市の北前船の歴史】
鳥海山を背に日本海に開けた塩越湊は、大潤、小潤、鰐淵の総称です。なかでも最大の大潤沖には千石船が12艘も碇泊でき、船と陸を結ぶ船が行き交っていました。沖には船を係留した棒杭が残っており、往時を偲ばせています。塩越湊から大坂や松前へ米が運ばれるとともに、塩、海産物、砂糖、織物などが運び込まれました。塩越湊の周辺には11の神社があり、それぞれに船給馬が残っています。また、にかほ市には塩越湊のほか、金浦、三森、平沢にも寄港しました。



由



利



本



荘



【由利本荘市の北前船の歴史】
江戸時代、子吉川河口に石脇湊(亀田藩)、古雪湊(本荘藩・矢島藩)の2つの湊が整備されていました。石脇湊は亀田藩の重要な湊として栄え、廻船問屋や旅館・料理屋が軒を連ね、賑わいのある町並みを作り出しました。北海道からはニシンやコンブなどの海産物が、北陸・山陰・大阪などの上方からは塩・木綿・紙・かさ・瓦・蠟などが運び込まれてきました。古雪湊は、「廻船問屋十人仲間」と称された本荘藩公認の株持ち問屋が10軒あり、船乗りのための旅館街や花柳街もありました。



- JR鶴岡駅より
バス10分
「致道博物館前」
下車徒歩2分
- 山形自動車道
鶴岡ICより
車で5分
- 庄内空港より
車で20分



致道博物館 CHIDO MUSEUM

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18
電話:0235-22-1199 FAX:0235-22-3531
<https://www.chido.jp/> E-mail:infochido@chido.jp

「致道(ちどう)」の名称は庄内藩校致道館に由縁し、出典は『論語』で「君子学んで以て其の道を致す」です。

